

シリーズ 石見銀山③③

—温泉津の町並みと整備事業1—



道路下の水路遺構

温泉津地区は石見銀山遺跡を構成する重要な地区の一つとして、平成19年7月に世界遺産に登録されました。大田市では平成27年度から、温泉津地区の環境整備事業に伴う発掘調査を行っています。温泉津の歴史と発掘調査に至る経緯、発掘調査から得られた成果について3回にわたって、紹介します。

温泉津という地名は温泉郷の港に由来し、温泉郷は邇摩郡を構成する温泉地として10世紀頃の文献に登場しています。その後、石見銀山の開発とともに、湯治のための温泉地としてだけではなく、物資の水揚げ港としても栄え、江戸時代の中頃には、日本海を経由して北海道と大阪を結ぶ「西廻り航路」の重要な寄港地として繁栄しました。福光石の加工業や、石見焼・石州瓦の窯業など、現在も続く地場産業が発達し、その後これらの製品が各地に運ばれました。一方で、町全体が細い谷筋に形成されたため、

過去の集中豪雨時には浸水被害が多発していました。昭和50年代初頭に排水路の改良工事が行われ、水はけ問題は大部分で解消しましたが、稲荷町を中心に路面冠水する部分が残っていました。近年では平成21年7月に発生した集中豪雨により、龍御前神社付近で、人の膝上まで水位が上がり、床上浸水などの被害が発生しています。大田市ではこの被害を受け、温泉街の浸水対策に取り組み、同時に下水道、防災施設、舗装、街路灯などの整備を計画し、平成26年度から環境整備事業として着手しています。

この事業に先立ち、大田市教育委員会で工事範囲内の遺跡の有無を確認したところ、江戸時代前後の小路跡と考えられる石積み遺構が道路の下で見つかり、発掘調査を行うことになりました。

工事の影響が及び地表下約2mまで調査を行った結果、かつて機能していた水路や道路が存在し、水路を覆う泥や、道路の盛土の中からは生活雑器、茶器などの陶磁器が見つかりました。これらの陶磁器が使われていた時代を詳しく調べてみると、毛利氏が温泉津を治めた16世紀後半に流通したものが含まれていることがわかりました。この時代は石見銀山遺跡でも調査例が少なく、温泉津の調査から、港町の新たな歴史が明らかとなってきています。

今回は、発掘調査でどんなものが見つかったのか、見つかったものから何がわかってきているのかについて紹介します。

●お問い合わせ先

大田市役所石見銀山課

☎0854-1831-8003 2

移住・定住相談会に大田市も参加します!ぜひ足をお運びください!

※日程や場所の変更がある場合があります。(平成28年大田市参加予定)
【お問い合わせ先】大田市役所地域振興課定住推進室 (☎0854-83-8029)

東京

- しまねUIターン相談会in東京
7月24日(日)(東京交通会館)
- ふるさと回帰フェア2016東京会場
10月22日(土)(東京国際フォーラム)
- しまねUIターンフェアin東京
11月23日(水・祝)(東京国際フォーラム)

大阪

- ふるさと回帰フェア2016大阪会場
8月6日(土)(大阪OMMビル)
- しまねUIターンフェアin大阪
10月15日(土)(梅田スカイビル)

広島

- しまねUIターンフェアin広島
9月10日(土)(基町クレド)